

ウィンドウ・出入口商品の施工についてのお願い

- ・高断熱、高气密住宅が増加しており、このような住宅にウィンドウ・エントランス商品を納める場合、躯体精度によって商品本来の性能(断熱・遮音・気密・水密性)を十分発揮できない場合があります。
- また、躯体との取合においては、枠周囲から漏気に伴う断熱性の低下や、漏水の原因が問われる場合がありますので施工するには十分な注意をお願いいたします。

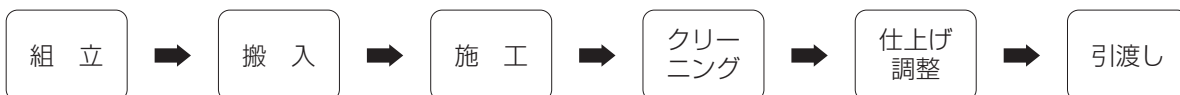
- ・掲載している図は納まり参考例の一つです。建物の工法、建物に求められる性能、立地条件などを考慮して適切な施工を行ってください。
- ・防水シート、防水テープ、シーリングなどの防水施工はそれぞれの材料の特性を説明書などで確認し正しい施工を行ってください。
- ・サッシ枠と柱の間にすき間がある場合は必ずライナーを入れて施工を行ってください。
- ・障子・網戸施工の際には落下防止の外れ止め部品を必ずかけてください。

保管に関するお願い

- 1 保管場所については現場監督と相談の上、指示に従ってください。
- 2 商品の直置きは避けてください。必ず、不陸のない台木の上に置いてください。
- 3 風にあおられないように商品を固定してください。
- 4 雨に濡れないように保護シートで覆ってください。
- 5 直射日光を避けてください。
- 6 ヒーターなど熱の発生する付近に置かないでください。
- 7 商品の上に物を置かないでください。キズなど損傷の原因になります。
- 8 重ね置きする場合はキズ、こすれないように緩衝材で保護してください。

クリーニングに関するお願い

- クリーニングが仕上げ調整後に行われると、以下の不具合につながるおそれがあります。
- 1 清掃時に障子・網戸の外れ止めを外すなどの操作をされ、外れ止めが正しい位置にセットされずに製品の落下などの不具合が生じる可能性があります。
 - 2 清掃時に外された網戸や部品が正しく取付けされずに開閉不良、製品の落下などの不具合を生じる可能性があります。
 - 3 玄関ドアの養生材を取り外せないため、ドアの調整が満足にできなくなります。
(玄関タイル仕上げが未完の場合は、全く調整ができなくなります。)
 - 4 仕上げ調整時に汚れのために、見落としたキズ・ヘコミが補修されないままお施主様に製品が届くこととなります。
 - 5 網戸、雨戸、障子が吊込み済のため、清掃が行き届かない箇所が発生し残留した砂埃などにより開閉不良・異常音が発生する可能性があります。



クリーニングは必ず仕上げ調整前に行うようお願いいたします。

- 1 施工する際にはサッシ取付精度が、下記寸法以下になっているか確認し調整してください。
 (下記寸法を超えると錠がかからなかったり、気密・水密性が悪くなる可能性があります。)
 サッシ枠の変形パターンが複合で発生した場合は取付精度以下でも開閉に支障がでる場合があります。取付後は開閉確認をしてください。

引違い編

予想クレーム

単位: mm	
L1-L2	A
2	1

超えると

- ・気密性が悪くなる
- ・水密性が悪くなる

サッシ枠のソリ(フクレ)Ⓐ

単位: mm	
L1-L2	B
2	1

超えると

- ・気密性が悪くなる
- ・水密性が悪くなる
- ・クレセントがかからない

サッシ枠のソリ(ツツミ)Ⓑ

単位: mm	
L1-L2	C
3	3

超えると

- ・気密性が悪くなる
- ・水密性が悪くなる
- ・クレセントがかからない

サッシ枠対角の差Ⓒ

単位: mm	
L1-L2	D
2	2

超えると

- ・障子が吊込めない
- ・クレセントがかからない

サッシ上下枠の内ソリⒹ

単位: mm	
L1-L2	E
3	1

超えると

- ・気密性が悪くなる
- ・水密性が悪くなる
- ・クレセントがかからない

サッシ上下枠の外ソリⒺ

単位: mm	
F	
2	

超えると

- ・開閉力が重くなる
- ・網戸と干渉しやすくなる

サッシ枠のねじれⒻ

プロジェクト窓他編

予想クレーム

単位: mm	
L1-L2	A
2	1

超えると

- ・水密・気密性、開閉力が悪くなる
- ・サッシ枠・障子のたて部にすき間ができる(ルーバー窓)
- ・ガラス重なり部分にすき間ができる(ルーバー窓)
- ・ロックが閉まりきらない
- ・バランスが機能しづらくなる(上げ下げ窓)

サッシ枠のソリ(フクレ)Ⓐ

単位: mm	
L1-L2	B
2	1

超えると

- ・水密・気密性、開閉力が悪くなる
- ・サッシ枠・障子のたて部にすき間ができる(ルーバー窓)
- ・ガラス重なり部分にすき間ができる(ルーバー窓)
- ・ロックが閉まりきらない
- ・開閉時に部品と干渉する
- ・パーヒンジがスムーズに動かない

サッシ枠のソリ(ツツミ)Ⓑ

単位: mm	
L1-L2	C
2	2

超えると

- ・水密・気密性、開閉力が悪くなる
- ・サッシ枠・障子のたて部にすき間ができる(ルーバー窓)
- ・ガラス重なり部分にすき間ができる(ルーバー窓)
- ・ロックが閉まりきらない
- ・障子が枠にぶつかる
- ・金具が引っかかり開閉できなくなる

サッシ枠対角の差Ⓒ

単位: mm	
L1-L2	D
2	1

超えると

- ・水密・気密性、開閉力が悪くなる
- ・サッシ枠・障子にすき間ができる

サッシ上下枠の内ソリⒹ

単位: mm	
L1-L2	E
2	1

超えると

- ・水密・気密性、開閉力が悪くなる
- ・サッシ枠・障子にすき間ができる

サッシ上下枠の外ソリⒺ

単位: mm	
F	
2	

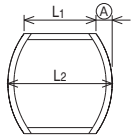
超えると

- ・水密・気密性、開閉力が悪くなる
- ・ガラス重なり部分にすき間ができる(ルーバー窓)

サッシ枠のねじれⒻ

玄関・勝手口ドア編

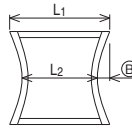
予想クレーム



		単位: mm	
	L1-L2	A	
ド			
ア	2	1	

超えると
 ・ラッチがかからない
 ・気密性が悪くなる

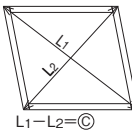
サッシ枠のソリ(フクレ)Ⓐ



		単位: mm	
	L1-L2	B	
ド			
ア	2	1	

超えると
 ・ドアとラッチ受けがぶつかる
 ・ドアが開かない

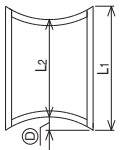
サッシ枠のソリ(ツツミ)Ⓑ



		単位: mm	
	L1-L2=C	C	
ド			
ア		3	

超えると
 ・下枠とドアがぶつかる
 ・ドアガードがかからない

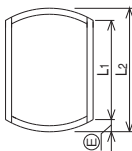
サッシ枠対角の差Ⓒ



		単位: mm	
	L1-L2	D	
ド			
ア	2	2	

超えると
 ・ドアと上下枠がぶつかる

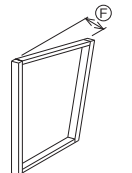
サッシ上下枠の内ソリⒹ



		単位: mm	
	L1-L2	E	
ド			
ア	2	2	

超えると
 ・ドアと上下枠の間にすき間ができる

サッシ上下枠の外ソリⒺ



		単位: mm	
	F		
ド			
ア		2	

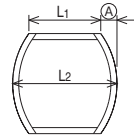
超えると
 ・ドアと枠の気密材が離れ、漏気する

サッシ枠のねじれⒻ

※上記寸法は品種、サイズ共に条件の悪いものを想定してあります。

玄関引戸編

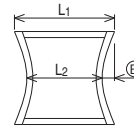
予想クレーム



		単位: mm	
	L1-L2	A	
引戸	2	2	

超えると
 ・戸先錠がかからない

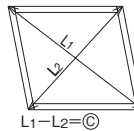
サッシ枠のソリ(フクレ)Ⓐ



		単位: mm	
	L1-L2	B	
引戸	2	2	

超えると
 ・召合せ錠がかからない

サッシ枠のソリ(ツツミ)Ⓑ

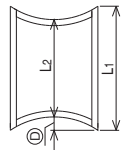


		単位: mm	
	L1-L2=C	C	
引戸			
ア		3	

超えると
 ・召合せ錠がかからない

サッシ枠対角の差Ⓒ

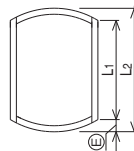
※幅が2.5m以上4mの範囲では5mm以下とする。



		単位: mm	
	L1-L2	D	
引戸	2	2	

超えると
 ・錠がかからない
 ・障子が吊込めない

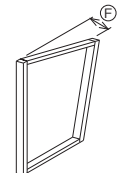
サッシ上下枠の内ソリⒹ



		単位: mm	
	L1-L2	E	
引戸	2	2	

超えると
 ・錠がかかりにくくなる
 ・たて枠とすき間ができる

サッシ上下枠の外ソリⒺ



		単位: mm	
	F		
引戸			
ア		2	

超えると
 ・引戸の開閉が重くなる
 ・クローザーが閉じなくなる

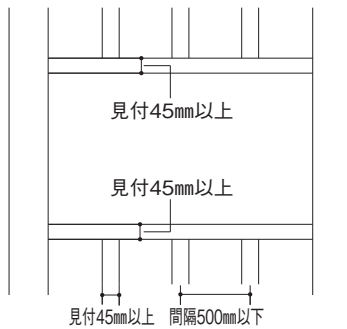
サッシ枠のねじれⒻ

開口部まわりの気密化と漏水対策

3 住宅サッシの施工手順について 通気工法・サイディング横張りの場合

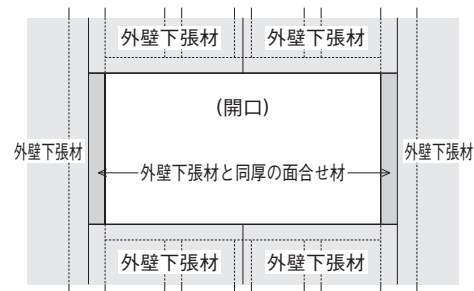
開口部まわりは、建物の工法、求められる性能、立地条件などを考慮して適切な施工を行ってください。住宅サッシの施工では気密性の確保や漏水防止対策などが重要になります。適切な対策が行われないと、すき間が生じたり、また漏水の原因にもなりますのでご注意ください。ここに掲載している施工手順は、透湿防水シート後張りタイプの場合の参考例です。

1. 開口を造る。



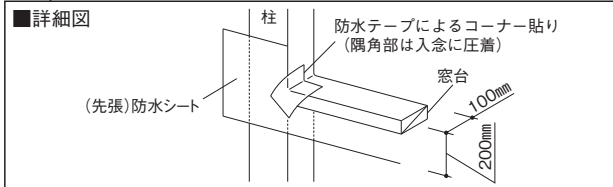
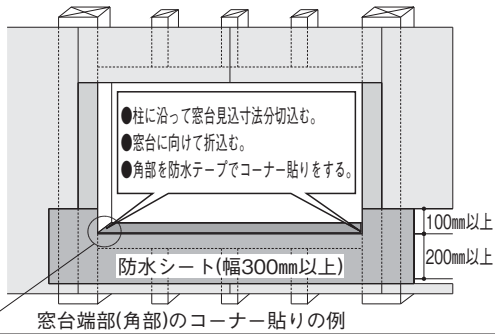
- 複層ガラス入サッシの重量は単板ガラス用サッシの約2倍。荷重を支えるため、
 - ・ 間柱、まぐさ、窓台の見付は45mm以上とする。
 - ・ 間柱は間隔500mm以下で配置する。

2. 外壁下張材を張り、左右柱に下張材と同厚の“面合せ材”を取付ける。

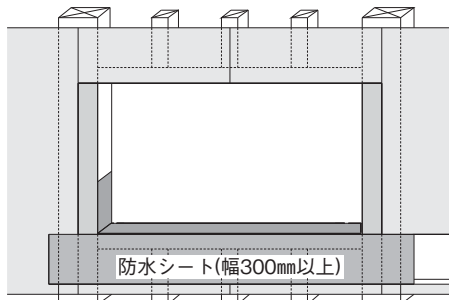


3. 窓台に防水シートを張り、窓台端部に防水処理を施す。

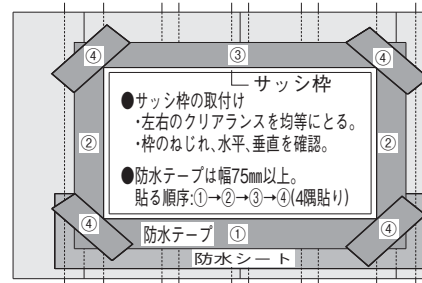
3-1. 内地仕様



3-2. 寒冷地仕様

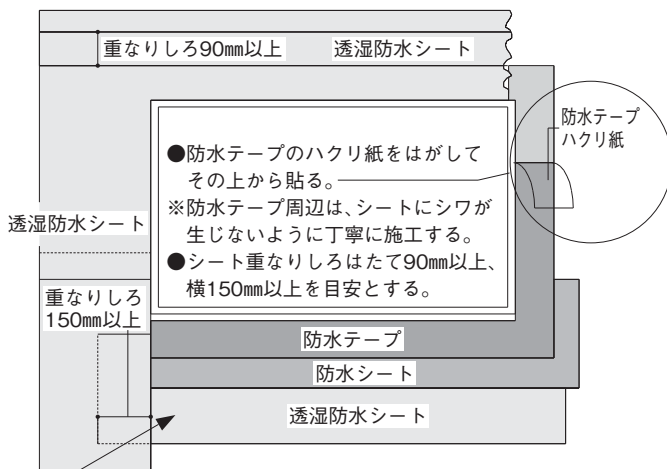


4. サッシ枠を取付け、サッシ枠廻り4辺に防水テープ(両面タイプ)を貼る。

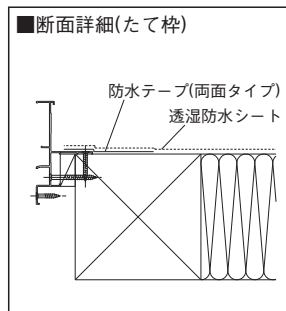
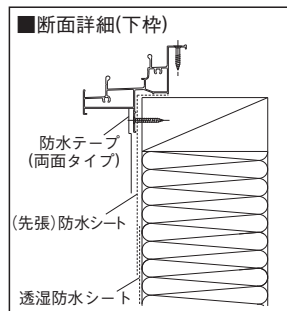


- サッシ枠4辺(①②③)に防水テープを施工する。
※テープはサッシ枠の釘打ちフィンを覆うように押付けて貼る。
- サッシ枠4隅(④)に防水テープを貼る。
※サッシ枠の角部が完全に隠れるようにサッシ枠に押付けて貼る。
注)防水テープの重なり部分およびサッシ枠との貼合せ部分は、十分に強くこすりつけて、ピンホールが生じないように注意する。これが十分になされている場合は、④(4隅貼り)を省略してもよい。
- 重なり部分はハクリ紙をはがして貼る。

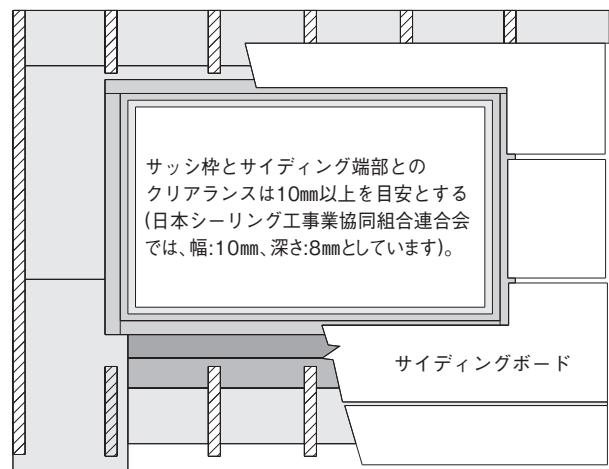
5. 透湿防水シートを施工する。



- 下枠部(窓下)には透湿防水シートを防水シートの下に差込む。

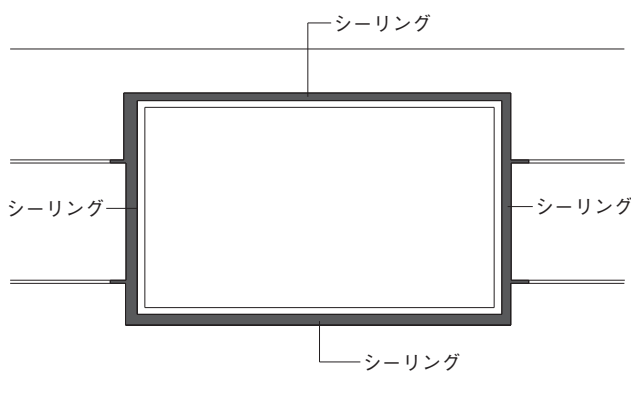


6. 通気胴縁を取付け、外壁材を施工する。 (横張りサイディングの例)



- 柱・間柱のピッチで通気胴縁を施工する。
(窓上、窓下の気流を妨げないように)
- サッシ枠周囲四方に胴縁を付ける。
→胴縁は上は横通し、下はたて通し。
※サッシ枠と胴縁の間は、バックアップ材・シーリングしろを考慮したクリアランスをとる。
- 胴縁で透湿防水シートと防水テープを押さえるように取付ける。

7. 外壁材小口の防水処理と開口部周辺のシーリング施工をする。



- 外壁材小口にはシーリング前に専用のプライマーを塗布する。
(シーリング部分)
- 外壁材小口とサッシ枠の間にバックアップ材を充填した後にシーリング施工する。

